

令和6年度 学校評価報告書



越前町立宮崎小学校

目 次

ページ

◆スクールプラン	．．．．． 1
◆評価の方法	．．．．． 2
◆年間自己評価書 総括表	．．．．． 3
◆具体的項目別評価表	
主体的な学びづくり	．．．．． 4～5
創造的な学びづくり	．．．．． 6～7
成長を支える環境づくり	．．．．． 8
◆基礎資料(アンケートデータ)	．．．．． 9
◆学校関係者評価書	．．．．． 10～11

R6 宮崎小学校 スクールプラン



〈越前町の学校教育目標〉
すべての子どもたちの可能性を引き出す
個別最適な学びと協働的な学びの実現
〈越前町の学校教育方針〉
個性と協働が共存する学校教育
～個性を発揮し多様な人々と協働しながら課題に取り組む～

学校教育目標

自ら学ぶ 共につくる

〈合い言葉〉
すすんで学ぶ
みんなとつくる



魅力ある学校・学校のWell-being に向かう数値目標

- ① 「学校が楽しい？」に「当てはまる」と答える児童が60%以上
- ② 「みんなで何かをするのは楽しい？」に「当てはまる」と答える児童が60%以上
- ③ 「授業がよくわかる？」に「当てはまる」と答える児童が60%以上
- ④ 「授業に主体的に取り組んでいる？」に「当てはまる」と答える児童が60%以上
- ⑤ 「楽しく働いている？」に「当てはまる」と答える教職員が60%以上
- ⑥ 「家庭・地域とつながっている？」に「当てはまる」と答える教職員が60%以上

〈 学校経営の重点目標 〉

1 主体的な学びづくり

○授業改善による確かな学力の育成

- 1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた主体的な授業研究
- 2 学びを確かめ、共有し、つなげる振り返り

○カリキュラムマネジメントによる教育課程の改善

- 3 教科領域等をつなぎ、学びをつなぐ学習計画
- 4 地域に学び、地域を考えるふるさと学習

自立した
学び手を
育てる

2 創造的な学びづくり

○児童が主体となる学び

- 1 主体的に考え、すすんで活動
- 2 伝え合い、かわり合い、認め合うなかま
- 3 試行錯誤しながら学ぶ過程を重視

○健やかな心と体づくり

- 4 みんなでつくる安全・安心な学校
- 5 自らつくる健康な体、健康な生活

3 成長を支える環境づくり

○共に歩む教職員集団

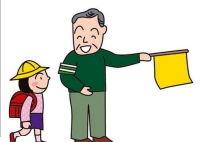
- 1 ワークライフバランスを意識し、心身ともに健康に、効率よく働く
(時間外勤務45時間以下、年休取得11日以上)
- 2 目標をもって主体的に学ぶとともに、協働することで学び合う

○家庭・地域との連携・協働

- 1 願いや思い・課題を共有し、評価・改善する
- 2 地域の資源を生かした学びを共につくる
- 3 15年間の学びを見通した保小中連携



〈教職員の願い〉 創造性や主体性を伸ばしたい。
〈児童の願い〉 やさしい心で助け合いたい。
〈保護者の願い〉 考える力、コミュニケーション能力を育ててほしい。
思いやり、粘り強さ、たくましさを身につけてほしい。
〈地域の願い〉 地域を大切にし、地域のために行動できるようになってほしい。



評価の方法

評価の方法について

- ① 本年度目標の達成状況については、児童対象にアンケートをとる。
 - ② 具体的方策の取り組み状況については、教職員対象にアンケートをとる。
 - ③ 上記①②の結果と児童の様子を総合的に判断し総合評価とする。
- ※アンケートは、1（肯定的）、2（おおむね肯定的）、3（やや否定的）、4（否定的）の4段階で答える。

評価基準について

・総合評価

	A	B	C
目標の達成状況	目標を達成できている	目標は達成できていないが、達成に近い	目標を達成できず、改善の余地が大きい

・児童アンケート

	A	B	C
目標の達成状況	数値目標を達成できている	数値目標は達成できていないが、達成に近い	数値目標を達成できず、改善の余地が大きい

・教職員アンケート

	A	B	C
目標の達成状況 (めやすとする肯定的回答 (1と2の合計)の割合)	目標を十分達成できている (90%以上)	目標をおおむね達成できている (70%以上90%未満)	達成できていない (70%未満)

評価の時期と改善について

- ・本年度の取り組みの評価として、2学期末に児童・職員に対してアンケート調査を実施し、その結果や児童の様子をふまえ、3学期及び次年度に向けての改善策を立てる。

令和6年度 年間自己評価 総括表

中期重点事項	具体的項目	本年度目標	具体的方策	総合評価
主体的な学びづくり	カリキュラム改善による確かな学力の育成	①「学校が楽しい？」に「当てはまる」と答える児童を60%以上にする。 ②「みんなで何かをするのは楽しい？」に「当てはまる」と答える児童を60%以上にする。	1. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業研究 ・教科の「見方・考え方」を意識した授業づくりをおこなう。 ・子ども発、子どもと共に創り上げる課題設定や単元づくりをおこなう。 2. 学びを振り返り、学びを確かめ共有する ・授業や単元全体を通して、学びを確かめたり深めたりする振り返りの時間を毎時間設ける。 ・本時で出た子どもたちの振り返りを次の授業で生かす。 3. 教科領域をつなぎ、学びをつなぐ学習計画 ・全体計画をもとに、各教科領域等をつなぎ、学びの必然性や深まりにつなげる。 ・「つきたい力（資質・能力）」を明確にしたカリキュラムデザインを意識する。 4. 地域に学び、地域にかかわるふるさと学習 ・地域に出向いたり、地域の方々を呼んだりするなど、子どもたちが住むふるさと宮崎と積極的に関わっていく。 ・「地域コーディネーター」を活用し、地域人材や資源を発掘していく。	B
創造的な学びづくり	児童が主体となる学校生活	③「授業がよくわかる？」に「当てはまる」と答える児童を60%以上にする。 ④「授業に主体的に取り組んでいる？」に「当てはまる」と答える児童を60%以上にする。	1. 主体的に考え、すすんで活動 ・学校行事、委員会、係活動、学級の取り組みにおいて、児童のアイデアを存分に生かす。 ・さまざまな活動の中で、自己決定の機会を設定し、PDCAサイクルを活用できる工夫をおこなう。 2. 伝え合い、かかわり合い、認め合うなかま ・行事、学習活動に縦割り班を生かし、異学年交流、縦のつながりを深められる機会を増やす。 ・人権教育、ポジティブ教育を通して、友達とのよりよい関係づくりができる素地を養う。 3. 試行錯誤しながら学ぶ過程を重視 ・出来映えを求めることなく、児童の学びの姿、学びの過程を積極的に評価する。 4. みんなでつくる安全・安心な学校 ・安全・安心な学校をつくるため、児童自らが課題を見つけそれらを解決しようと問題提起できる機会をつくる。 ・家庭、地域と協力し、防災安全教育を推進する。 5. 自らつくる健康な体、健康な生活 ・家庭と連携し、児童自らが自己の生活を見直し、健康への意識を高められるような働きかけをおこなう。	A
成長を支える環境づくり	家庭・地域と連携・協働	①「主体的に学び協働できた？」「目標・目的を問い直し、よりよい授業・活動づくりをめざした？」に「当てはまる」と答える教職員を80%以上にする。 ②時間外勤務時間を月平均45時間以下にする。 ③年休平均取得日数を年間11日以上にする。	1. ワークライフバランスを意識し、心身ともに健康に、効率よく働く ・これまでの価値観や常識から脱却し、職務の再構築を図る。 ・校務全般におけるICT活用を更に推進し、校務の効率化を図る。 2. 目標をもって主体的に学ぶとともに、協働することで学び合う ・研究推進計画に則り各自で目標設定をして主体的に実践を進める。また、実践の経過や結果を共有することにより、学びを深める。 3. 家庭・地域と願いや課題を共有し、評価・改善する ・家庭・地域の願いや課題を把握した上で実践を進め、評価・改善していく。 4. 地域の資源を生かした学びを共につくる ・地域コーディネーターや地域住民と連携し、地域の自然・歴史・産業等について探究する。 5. 15年間の学びを見通した保小中連携 ・「育む力(3)」「重点目標(4)」を念頭に置き、円滑な接続と連携に努める。	A

具体的項目と目標、具体的方策と評価

中期重点項目	主体的な学びづくり	総合 評価	B
	授業改善による確かな学力の育成 カリキュラムマネジメントによる教育課程の改善		
重点項目 について	毎年実施している「全国学力・学習状況調査」、「SASA」、「標準学力テスト（CRT）」の結果を分析すると、年々学力が低下していることが分かる。福井県や国が求める学力を児童が身に付けるためには、日々の授業改善が欠かせない。カリキュラムマネジメントの視点から、教育課程全体をPDCAサイクルで見直し、学びの必然性や深まりを目指す授業を学校全体で創り上げていく。		
目標指標 の 達成状況 (児童アンケート)	①「学校が楽しい？」に「当てはまる」と答える児童が60%以上 →【66%】	評価	A
	②「みんなで何かをするのは楽しい？」に「当てはまる」と答える児童が60%以上 →【76%】		A
	③「授業がよくわかる？」に「当てはまる」と答える児童が60%以上 →【59%】		B
	④「授業に主体的に取り組んでいる？」に「当てはまる」と答える児童が60%以上 →【59%】		B
具体的方策 と 評価 (教員アンケート)	1. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業研究	評価	
	・教科の「見方・考え方」を意識した授業づくりをおこなうことができたか →【肯定的回答100%】		A
	・子ども発、子どもと共に創り上げる課題設定や単元づくりをおこなうことができたか →【肯定的回答 90%】		B
	2. 学びを振り返り、学びを確かめ共有する		
	・授業や単元全体を通して、学びを確かめたり深めたりする振り返りの時間を毎時間設けることができたか→【肯定的回答100%】		A
	・本時で出た子どもたちの振り返りを次の授業で生かすことができたか →【肯定的回答 90%】		B
	3. 教科領域をつなぎ、学びをつなぐ学習計画		
	・全体計画をもとに、各教科領域等をつなぎ、学びの必然性や深まりにつなげることができたか →【肯定的回答100%】		A
	・「つきたい力（資質・能力）」を明確にしたカリキュラムデザインを意識することができたか →【肯定的回答 90%】		B
	4. 地域に学び、地域にかかわるふるさと学習		
総括	・地域に出向いたり、地域の方々を呼んだりするなど、子どもたちが住むふるさと宮崎と積極的に関わっていくことができたか →【肯定的回答 90%】	B	
	・「地域コーディネーター」を活用し、地域人材や資源を発掘していくことができたか →【肯定的回答100%】	A	
総括	学校全体としては③④ともに目標値をやや達成することができなかったが、児童や教員の取組が身を結んできた。③では、授業中に困っている児童への個別対応や手助けとなる学習方法の提示など、細かなサポートができた。④では、学習の目的やゴールを児童と共有し、児童と教員が共ににつくり上げる授業づくりを目指してきた。真剣に考え、仲間と課題解決していこうとする姿が随所に見られた。また、校内研究会の充実を図り、授業づくりを全員で一から考える機会が教員アンケートの結果に繋がったと考えられる。指導主事訪問等での授業を、教員一人一人が自分事として捉え、取り組んできたことが成果となって表れている。6年生が4月に実施した「全国学力・学習状況調査」では、全国及び県平均を上回った。		
改善策	③④の結果は、ともに学年が上がるにつれて肯定的な回答が減少していく傾向にある。③では、学習内容が難しくなり、教科によっては苦手意識が積み重なっていることが考えられる。各学年で、下学年からの積み上げを意識したり、新しい単元に入る前にAIドリル等を活用して復習したりする機会を設ける。④では、教員からの一方的な「やらされ感」を感じさせないようにする。そのために、学習や活動への目的意識をしっかりと共有するとともに、児童に委ねる部分を増やし、自ら主体的に取り組むようにする。校内研究会では、経験や立場が異なる集団であるからこそ、授業づくりの根幹や育てたい資質能力に立ち返り、全員が深く学ぶ機会を継続して設けていく。		

目標を達成するための具体的方策実践例

1. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業研究

今年度は、「主体的に考え、表現し、共に学ぶ授業づくり～児童も教師もわくわくするカリキュラムデザインを通して～」という研究主題をもとに、授業研究や校内研究会を行った。

まず、全体の主題を個々の教員が自分事とするために、学期ごとに目標と内容、振り返りをまとめる「研究のまとめ」を作成した。経験や立場が異なる集団だからこそ、主題から自分に合った授業実践を行うことをねらいとした。

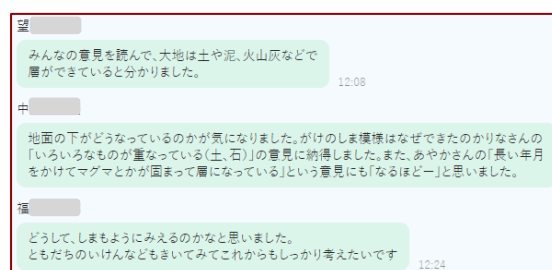
指導主事訪問での公開授業では、指導案作成の段階から一人一案を持ち寄り、実施する単元について深く語り合い、理解することを通して、全員で一から授業をつくり上げた。また、後期指導主事訪問で行った4年生国語の単元をもとに、単元全体を通して見られた成果と課題を他学年で生かし、実践することに繋げた。



後期指導主事訪問 4年生国語

2. 学びを振り返り、学びを確かめ共有する

これまで紙ベースで行ってきた授業後や各単元末のふりかえりを、できるだけタブレット端末上の学習支援ソフト(スカイメニュー「気づきメモ」「発表ノート」)を活用して行うようにした。各自のふりかえりをクラス全体で共有し学びを深める点や次の課題につなげる点でとても効率的、効果的であった。ICTを積極的に使っていくことで、タブレット端末での文字入力や活用スキルの向上だけでなく、有効な活用場面が増えることが期待できる。

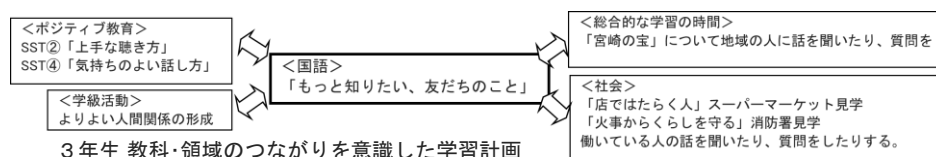


6年生理科 ふりかえり「気づきメモ」

3. 教科領域をつなぎ、学びをつなぐ学習計画

各学年で年度当初に1年間の単元計画や学校行事等を確認し、先を見通した効果的な指導計画を練ることができた。児童にとって学びの必然性が生まれるよう、学校行事や教科領域をつなぎ、学びをつないでいくことができた。

3年生では、国語の「気持ちをこめて、「来てください」」という単元を体育大会の前に行い、体育大会の案内を手紙に書くことで、意欲的に学習に取り組むことができた。また、「もっと知りたい、友だちのこと」という単元で学んだ質問の仕方を、総合的な学習の時間や社会科の見学での質問に生かしたり、ポジティブ教育などに関連付けたりすることができた。4年生では、国語の「未来につなぐ工芸品」と総合的な学習の時間で学んでいる越前焼との共通点を生かし、学びを深めることができた。今後、越前焼の魅力について発信する際にもこの単元での学びを生かすことができる。



4. 地域に学び、地域にかかわるふるさと学習

総合的な学習で、5年生が「ふるさとの里山を守る」というテーマで、ふるさと学習を行った。宮崎地区にコウノトリが飛来し産卵したことを通して、自然環境と有機栽培の関係性を学習する計画を立てた。八田の井上さんの協力で、田植えやビオトープでの、希少生物探し体験などを行った。児童は、体験を通して、有機米栽培の大変さを知ると共に、お米になるまでの大変さを実感した。また、宮崎地区の自然環境のすばらしさや周りの人々の協力が必要なのだという事も理解することができた。

また、4年生は陶芸の学習を行った。窯元や古窯博物館、陶芸館に見学に行き、実際に焼き物作り体験も行った。3年生は、たけのこ掘り体験を行ったり、「宮崎の宝」というテーマをもとに、地区の歴史的遺構などを調べ実際に現地に外出いたりする学習を行った。「宮崎のむかしばなし紙芝居」を地域の人に伝えるために、地域の方から紙芝居の読み方も学習することができた。



5年生のふるさと学習

具体的項目と目標、具体的方策と評価

中期重点項目	創造的な学びづくり 児童が主体となる学び 健やかな心と体づくり	総合 評価	A
重点項目 について	昨年度は、委員会活動や学校行事などで、児童自らが企画・運営し、試行錯誤しながら取り組む活動が多く見られた。今年度は、児童が主体性を発揮しながら互いにに関わり、つながりを求め、絆をさらに深められるような活動の工夫をおこなう。また、それらを実現するための土台となる、健康な心と体、どの子ども居場所がある安全・安心な教室、学校づくりに引き続き取り組む。		
目標指標 の 達成状況 (児童アンケート)	①「学校が楽しい？」に「当てはまる」と答える児童が60%以上 →【66%】 ②「みんなで何かをするのは楽しい？」に「当てはまる」と答える児童が60%以上 →【76%】 ③「授業がよくわかる？」に「当てはまる」と答える児童が60%以上 →【59%】 ④「授業に主体的に取り組んでいる？」に「当てはまる」と答える児童が60%以上 →【59%】	評価	A A B B
具体的方策 と 評価 (教員アンケート)	1. 主体的に考え、すすんで活動 ・学校行事、委員会、係活動、学級の取り組みにおいて、児童のアイデアを存分に生かすことができたか →【肯定的回答100%】 ・さまざまな活動の中で、自己決定の機会を設定し、PDCAサイクルを活用できる工夫をおこなうことができたか →【肯定的回答100%】 2. 伝え合い、かかわり合い、認め合うなかま ・行事、学習活動に縦割り班を生かし、異学年交流、縦のつながりを深められる機会を増やすことができたか →【肯定的回答 90%】 ・人権教育、ポジティブ教育を通して、友達とのよりよい関係づくりができる素地を養うことができたか →【肯定的回答100%】 3. 試行錯誤しながら学ぶ過程を重視 ・出来映えを求めることなく、児童の学びの姿、学びの過程を積極的に評価することができたか →【肯定的回答 90%】 4. みんなでつくる安全・安心な学校 ・安全・安心な学校をつくるため、児童自らが課題を見つけそれらを解決しようと問題提起できる機会をつくることができたか →【肯定的回答100%】 ・家庭、地域と協力し、防災安全教育を推進することができたか →【肯定的回答100%】 5. 自らつくる健康な体、健康な生活 ・家庭と連携し、児童自らが自己の生活を見直し、健康への意識を高められるような働きかけをおこなうことができたか →【肯定的回答100%】	評価	 A A A A B A A A
総括	学校全体では①②の数値が目標値を上回り、また肯定的回答はどちらも90%を超えていることから、ほとんどの児童は「学校生活」「友達との関わり」に楽しさを感じていることが分かる。学校行事・委員会活動・学級の取り組みなど様々な場面において、自己決定しやりたいことを自分たちの手で実現できる機会を積極的に作ってきた成果であると考え。 また、昨年度からの「によきによき宮崎っ子プロジェクト」に加え、今年度は、学校全体への問題提起（歯磨き・あいさつ・そうじ・防災学習）があり、集会や縦割り班での話し合いなど、学年を超えた形で考えを交流することができた。さらに、健やかな心と体づくりにおいては、特に「心のお天気調べ」が児童の悩みや心配事を把握するきっかけとなり、その後の迅速な対応につなげることができた。		
改善策	①に関しては学年別に見ると目標値を達成できていない学年もあり、「どちらかというところ」を「当てはまる」にすることが課題である。そのために、「どちらかというところ」と答えている児童を把握し、それらの児童が、自分の考えや意見をしっかりと持ち、いろいろな活動に参画できるような場や機会を与えていくことが大事だと考える。さらに、児童が自分のがんばりや努力をふり返り、次へとつなげられるよう、その学びの姿や過程を教師がしっかりと見取り、フィードバックすることが大切である。 また、縦割り遊びやペア学年での交流など、異学年で関わる機会をもっと計画的に取り入れ、日頃から共感的な人間関係を築くことができるようにしていく。		

目標を達成するための具体的方策実践例

1. 主体的に考え、すすんで活動

3. 試行錯誤しながら学ぶ過程を重視

委員会活動や体育大会では、児童の意見を尊重し、児童が主体的に活動できる場を設定した。昨年度からの「によきによき宮崎っ子プロジェクト」を継続し、児童会や各委員会がより良い学校づくりのために活動を計画・実行し、ふり返しを行った。学期末には児童集会を開催し、各委員会の活動の振り返りや次学期の活動の紹介をおこなった。

体育大会では、全校競技や学年競技において、児童の意見を競技内容に反映させることができた。全校競技においては、どんな競技にするかを児童会が提案し、競技方法やペアの組み方、リレーしていく順番を児童同士で相談して決定した。また、練習では内容を振り返り、より速くゴールするための作戦を練る姿が見られた。中学年の学年競技でも、ちがう距離を誰がどの順番で走るのか、チームごとの話し合いで決定した。試走を重ねる中で、速い児童が長距離を走るよう変更したり、順番を入れ替えたりするなど、試行錯誤する姿が見られた。また、教師は作戦の変更に対してフィードバックをおこなった。



1 学期末 児童集会



体育大会 大玉転がし練習

2. 伝え合い、かかわり合い、認め合うなかま

児童会が学校の掃除をよりよくしたいと考え、掃除の実態やその目的について伝え、よりよい掃除の仕方について考える児童集会を開いた。縦割り班ごとに、前期の掃除の様子をふり返し、学校をきれいにするための目標をレベル1からレベル3まで設定した。後期の掃除は、各班で異なる目標達成を目指し掃除に取り組んでいる。また、毎日の掃除の終わりには、班長が特に頑張っていた子を紹介したり、金曜日には一週間の掃除を全員でふり返したりしながら、次週の掃除につなげる時間になっている。



児童集会
縦割り班での掃除の目標決め

4. みんなでつくる安全・安心な学校

能登半島で大きな地震があり「もし登下校中に大地震が起きたら、自分たちで適切な行動ができるだろうか？」という「問い」から6年生の総合学習がスタートした。「どこに避難すればいい？何を持っていけばいい？」など様々な疑問に対して調べ学習をする過程で「6年生だけじゃなくて、下級生や自分の地区に住んでいる人にも伝えたい」という声が挙がった。そこで、学校公開日に全校児童と保護者に対し、6年生が学習したことをもとに提案をおこない、防災について考えてもらうことにした。地区ごとに分かれ、各地区の危険箇所を写真で示し、「もし、ここで大地震が起きたらどうしますか？」といった災害シミュレーションや災害時に何を持っていけばいいかを考えるワークショップも実施した。保護者や地域の防災士等専門家も参加し、家族で避難するときには何を準備するとよいか子どもたちと真剣に話し合う姿が見られた。授業後のアンケートには、「これからも定期的に防災について考える時間をつくってもらいたい」という意見がたくさん書かれていた。今後も防災について考える機会が持てるよう検討していく。



6年生の防災授業
地区ごとに保護者と一緒に防災について考える

5. 自らつくる健康な体、健康な生活

保健委員会の企画として、歯と口の健康について取り組んだ。学校歯科医の協力のもと、はみがき名人を認定し、全校児童に「はみがきの工夫」を紹介したり、はみがき動画を活用しながら、ていねいにみがくことを意識した給食後のはみがきに取り組んだりした。活動内容については校内に掲示したり、保健だよりを通して啓発したりした。これらの活動をいかして、夏休み中には、各家庭でカラーテスターを用いたはみがきチェックをおこなった。



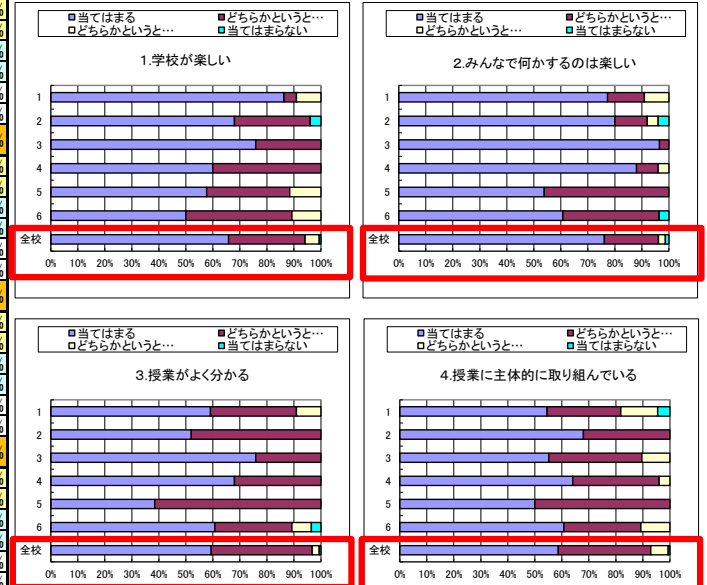
保健委員会
ハピハピハッピープロジェクト

具体的項目と目標、具体的方策と評価

中期重点項目	成長を支える環境づくり	総合 評価	A
	共に歩む教職員集団 家庭・地域との連携・協働		
重点項目 について	本校には若手からベテランまでバランスよく在籍している。各自が個性や強みを発揮するとともに、協働して教育活動に臨むことにより、より大きな成果を得ることができると思われる。 本校保護者は学校教育にとても協力的であり、地域には、特色ある自然・歴史・産業等の保持・発展に努める方々がいる。このような保護者や地域の方と連携・協働することにより、より多様な学習活動を展開できると思われる。		
目標指標 の 達成状況 (教員アンケート)	⑤「楽しく働いている？」に「当てはまる」と答える教職員が 60%以上 →【64%】	評価	A
	⑥「家庭・地域とつながっている？」に「当てはまる」と答える 教職員が60%以上 →【64%】		A
具体的方策 と 評価 (教員アンケート)	1. ワークライフバランスを意識し、心身ともに健康に、効率よく働く	評価	
	・これまでの価値観や常識から脱却し、職務の再構築を図ることが できたか →【肯定的回答 91%】		A
	・校務全般におけるICT活用を更に推進し、校務の効率化を図ること ができたか →【肯定的回答 91%】		A
	2. 目標をもって主体的に学ぶとともに、協働することで学び合う		
	・研究推進計画に則り各自で目標設定をして主体的に実践を進める ことができたか →【肯定的回答 91%】		A
	・実践の経過や結果を共有することにより、学びを深めることがで きたか →【肯定的回答100%】		A
	3. 家庭・地域と願いや課題を共有し、評価・改善する		
	・家庭・地域の願いや課題を把握した上で実践を進め、評価・改善 していくことができたか →【肯定的回答 91%】		A
	4. 地域の資源を生かした学びを共につくる		
	・地域コーディネーターや地域住民と連携し、地域の自然・歴史・ 産業等について探究することができたか→【肯定的回答 90%】		B
	5. 15年間の学びを見通した保小中連携		
	・「育む力(3)」「重点目標(4)」を念頭に置き、円滑な接続と連携 に努めることができたか →【肯定的回答100%】		A
総括	⑤「楽しく働く」の結果は、中間評価時より改善し目標値に達することができた。これは、とても多忙な職務の中においても、教職員が各々の分掌に応じた目標を定め、その達成に向けて努力し、達成感ややりがいを感じることができたためだと思われる。また、協働して職務に当たることのできる本校の体制も、目標達成の大きな要因になっている。ただし、楽しく働いているとは言えないと答えた教職員が若干名いることが憂慮される。 ⑥「家庭・地域とつながる」の結果も、中間評価時より改善し目標値に達することができた。これは、自然環境・地域産業・文化遺産・防災等に関する学習に、地域の方や保護者の協力を得て、大きな成果を得ることができたからであろう。		
改善策	⑤「楽しく働く」に関しては、まず、働き方改革の更なる推進によって超過勤務時間の短縮を図り、ライフワークバランスの最適化を目指す。時間的余裕があり心身が健康であってはじめて、職務に対して前向きな思いを持てるからである。次に、校内外の研修会やOJT(実務を通して知識・スキルを習得)等を通して授業・生徒指導に関する指導力の向上を図る。教育の本質に関わる領域において自身の成長を実感することが、楽しく働くことに直結するからである。 ⑥「家庭・地域とつながる」に関しては、今年度、保護者及び地域の方が、とても協力的で理解があるということを再確認することができた。今後は、協力していただいた方とのネットワークの維持・発展を図ると共に、協力していただく学習活動の内容の精選・深化が必須である。		

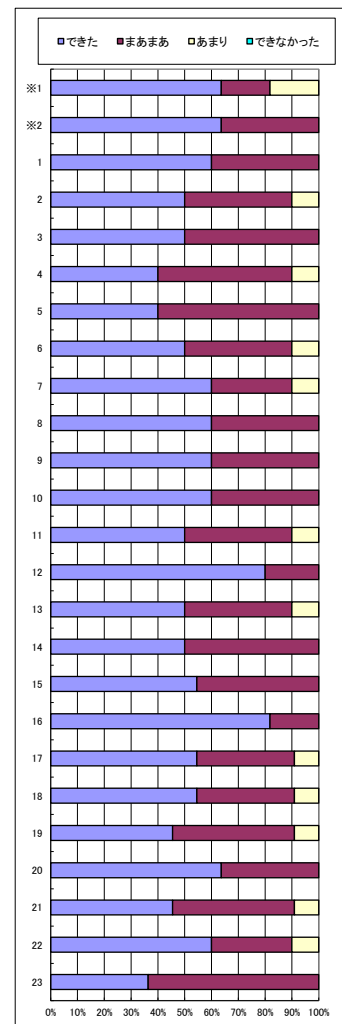
令和6年度 2学期 アンケート結果(児童対象・11月実施)

質問内容	学年	人数				%				肯定的回答
		当てはまる	どちらかというと当てはまる	どちらかというと当てはまらない	当てはまらない	当てはまる	どちらかというと当てはまる	どちらかというと当てはまらない	当てはまらない	
1 学校が楽しい。	1	19	1	2	0	86%	5%	9%	0%	91%
	2	17	7	0	1	68%	28%	0%	4%	96%
	3	22	7	0	0	76%	24%	0%	0%	100%
	4	15	10	0	0	60%	40%	0%	0%	100%
	5	15	8	3	0	58%	31%	12%	0%	88%
	6	14	11	3	0	50%	39%	11%	0%	89%
全校		102	44	8	1	66%	28%	5%	1%	94%
2 みんなで何かするのは楽しい。	1	17	3	2	0	77%	14%	9%	0%	91%
	2	20	3	1	1	80%	12%	4%	4%	96%
	3	28	1	0	0	97%	3%	0%	0%	100%
	4	22	2	1	0	88%	8%	4%	0%	96%
	5	14	12	0	0	54%	46%	0%	0%	100%
	6	17	10	0	1	61%	36%	0%	4%	96%
全校		118	31	4	2	76%	20%	3%	1%	96%
3 授業がよく分かる。	1	13	7	2	0	59%	32%	9%	0%	91%
	2	13	12	0	0	52%	48%	0%	0%	100%
	3	22	7	0	0	76%	24%	0%	0%	100%
	4	17	8	0	0	68%	32%	0%	0%	100%
	5	10	16	0	0	38%	62%	0%	0%	100%
	6	17	8	2	1	61%	29%	7%	4%	89%
全校		92	58	4	1	59%	37%	3%	1%	97%
4 授業に主体的に取り組んでいる	1	12	6	3	1	55%	27%	14%	5%	82%
	2	17	8	0	0	68%	32%	0%	0%	100%
	3	16	10	3	0	55%	34%	10%	0%	90%
	4	16	8	1	0	64%	32%	4%	0%	96%
	5	13	13	0	0	50%	50%	0%	0%	100%
	6	17	8	3	0	61%	29%	11%	0%	89%
全校		91	53	10	1	59%	34%	6%	1%	93%



令和6年度 2学期 アンケート結果(教員対象・11月実施)

質問内容	人数				%				肯定的回答
	できた	どちらかというとできた	どちらかというとできなかった	できなかった	できた	どちらかというとできた	どちらかというとできなかった	できなかった	
※1 楽しく働いている?	7	2	2		64%	18%	18%	0%	82%
※2 家庭・地域とつながっている?	7	4			64%	36%	0%	0%	100%
1 教科の「見方・考え方」を意識した授業づくりをおこなうことができたか。	6	4			60%	40%	0%	0%	100%
2 子ども発、子どもと共に創り上げる課題設定や単元づくりをおこなうことができたか。	5	4	1		50%	40%	10%	0%	90%
3 授業や単元全体を通して、学びを確かめたり深めたりする振り返りの時間を設けることができたか。	5	5			50%	50%	0%	0%	100%
4 本時で出た子どもたちの振り返りを次の授業で生かすことができたか。	4	5	1		40%	50%	10%	0%	90%
5 全体計画をもとに、各教科領域等をつなぎ、学びの必然性や深まりにつなげることができたか。	4	6			40%	60%	0%	0%	100%
6 「つたたい力(資質・能力)」を明確にしたカリキュラムデザインを意識することができたか。	5	4	1		50%	40%	10%	0%	90%
7 地域に向かい、地域の方々を呼んだりするなど、子どもたちが住むふるさと宮崎と積極的に関わっていくことができたか。	6	3	1		60%	30%	10%	0%	90%
8 「地域コーディネーター」を活用し、地域人材や資源を発掘していくことができたか。	6	4			60%	40%	0%	0%	100%
9 学校行事、委員会、係活動、学級の取り組みにおいて、児童のアイデアを存分に生かすことができたか。	6	4			60%	40%	0%	0%	100%
10 さまざまな活動の中で、自己決定の機会を設定し、PDCAサイクルを活用できる工夫をおこなうことができたか。	6	4			60%	40%	0%	0%	100%
11 行事、学習活動に縦割り班を生かし、異学年交流、縦のつながりを深められる機会を増やすことができたか。	5	4	1		50%	40%	10%	0%	90%
12 人権教育、ポジティブ教育を通して、友達とのよりよい関係づくりができる素地を養うことができたか。	8	2			80%	20%	0%	0%	100%
13 出来映えを求めず、児童の学びの姿、学びの過程を積極的に評価することができたか。	5	4	1		50%	40%	10%	0%	90%
14 安全・安心な学校をつくるため、児童自らが課題を見つけそれを解決しようと問題提起できる機会をつくることができたか。	5	5			50%	50%	0%	0%	100%
15 家庭・地域と協力し、防災安全教育を推進することができたか。	6	5			55%	45%	0%	0%	100%
16 家庭と連携し、児童自らが自己の生活を見直し、健康への意識を高められるような働きかけをおこなうことができたか。	9	2			82%	18%	0%	0%	100%
17 これまでの価値観や常識から脱却し、職務の再構築を図ることができたか。	6	4	1		55%	36%	9%	0%	91%
18 校務全般におけるICT活用を更に推進し、校務の効率化を図ることができたか。	6	4	1		55%	36%	9%	0%	91%
19 研究推進計画に則り各自で目標設定をして主体的に実践を進めることができたか。	5	5	1		45%	45%	9%	0%	91%
20 実践の経過や結果を共有することにより、学びを深めることができたか。	7	4			64%	36%	0%	0%	100%
21 家庭・地域の願いや課題を把握した上で実践を進め、評価・改善していくことができたか。	5	5	1		45%	45%	9%	0%	91%
22 地域コーディネーターや地域住民と連携し、地域の自然・歴史・産業等について探究することができたか。	6	3	1		60%	30%	10%	0%	90%
23 「育む力(3)」「重点目標(4)」を念頭に置き、円滑な接続と連携に努めることができたか。	4	7			36%	64%	0%	0%	100%



令和6年度学校関係者評価書

宮崎小学校

主 体 的 な 学 び づ く り	授業改善 による確 かな学力 の育成 カリキュ ラムマネ ジメント による教 育課程の 改善	・全体の主題を先生方が自分事として捉える仕組みを整備したことで、より良い授業が展開できているものと思われる。 ・児童アンケートのうち、「授業がよくわかる?」「授業に主体的に取り組んでいる?」という設問に対し、「当てはまる」と答えた児童の割合は目標の60%を超えることはできなかったが、「どちらかという当てはまる」を加えると、90%以上が肯定的な回答であることや、6年生による「全国学力・学習状況調査」では、全国及び県平均を上回っていることから、一定の評価ができる。 ・一方で、学年が上がるほど、勉強ができる子どもとできない子どもの二極化の傾向も出てくる可能性があるため、個人にあった教育をさらに進めたり、中学校との連携を進めたりする必要がある。 ・子ども達が勉強をする必要性については、その時代により教育に対する考え方が変化するなかで、永遠の課題であるが、子ども達が夢を持つことが重要である。夢を持つためにも、成果・結果だけでなく、それまでの過程のなかで、頑張ったこと、楽しかったことを褒める、気付かせることで、子ども達の居場所や舞台を創り出すことができると思われる。そういった意味でも、地域学習はふるさとを広く知り、実感できる教育であり、引き続きの取り組みと充実を要望する。
創 造 的 な 活 動 づ く り	児童が主 体となる 学び 健やかな 心と体づ くり	・子ども達の主体性を重要視する点が見られる。そういったなかで、児童アンケートのうち、「学校が楽しい?」「みんなで何かするのは楽しい?」という設問に対し、「当てはまる」と答えた児童の割合が目標の60%を超えていることや、「どちらかという当てはまる」を加えると90%以上が肯定的な回答であることは評価できる。この結果が中学校においても「自分たちで創りだそう」という子どもたちの意識にもつながっていると思う。 ・委員会活動において、子ども達自身が自分達の活動の振り返りをしたり、体育大会で自分達の意見を競技内容に反映したりすることで、子ども達同士の絆を深められるとともに、能動的に取り組む力の育成が図られるよう今後も継続をお願いする。 ・掃除について、子ども達が掃除の振り返りや掃除を頑張っていた子どもを紹介している点、健康な体づくりについて、歯磨きの意識啓発等により、年齢に関係なく、相互に認め合う仲間づくりに繋がっている。 ・安全・安心な学校については、子ども達が生活する上で基本的なことである。6年生が総合的な学習の時間で震災時の行動について学んだ内容を、下級生や地域住民にも伝えたいと考え、学校公開日に保護者も交えて学習した点は、子ども達の発信力強化や地域全体の防災意識の啓発等につながったものと思う。今後も定期的実践して欲しい。また、通常時でも危険な箇所がないか改めて点検し対応する必要があると思われる。

成長を支える環境づくり	共に歩む 教職員 集団 家庭・ 地域との 連携・ 協働	・教員アンケートにおいて、「楽しく働いている？」という設問に対し、「当てはまる」と答えた先生方が、目標の60%を超えており、「どちらかというと当てはまる」を加えると80%以上が肯定的な回答であり、安心・安全な職場であると評価できる。ただし、少数の先生方が「どちらかというと当てはまらない」と回答していることから、先生方や専門家の意見を聞き、PTAや地域住民を含む学校関係者が協力し、より働きやすい職場、よりやりがいを感じられる職場を構築していく必要がある。 ・教員アンケートにおいて、「家庭・地域とつながっている？」という設問に対し、「当てはまる」と答えた先生方が、目標の60%を超えており、「どちらかというと当てはまる」を加えると100%が肯定的な回答であり、家庭や地域との関係性構築やつながろうとする意識がうかがえる。これは、活発な地域学習の展開などからも実感できるものである。 ・地域への情報発信は継続して欲しい。 ・近年は、DXが大きなテーマとなっており、子ども達の学習しやすさに加えて、先生方の働きやすさの改善が重要視されている。さらなる働き方改革を推し進めて欲しい。
その他 学校教育 全般		・全体を通して、宮崎小学校の取り組みのレベルの高さ、子ども達の能力の高さが感じられる。 ・国語や算数など一般的な勉強の能力は、「全国学力・学習状況調査」の結果が全国平均や県平均を上回っていることから客観的に高いことが証明できている。 ・これだけでなく、普段の生活や地域学習から、主体的に考える力や発信する力、周囲の人のことや地域のことを思う心など、これからの社会を生き抜くために必要な根本的な力を身に付けていることができています。 ・これも先生方の日頃の努力、意識の高さによるものであり、感謝したい。一方で、働き方改革が少しでも進み、先生方が働きやすい、働き続けられる環境整備をどんどん進めて欲しい。 ・宮崎小学校の特色ある教育活動方針による、たくましい宮崎っ子の育成について、今後でも取り組んで欲しい。 ・自然公園の利活用を考えて欲しい。